

2023年度食農教育実践支援事業

岐阜市立女子短期大学生協ピーチくらぶ

「えだまめ農業体験」報告書

- 3月23日（木）2023年度活動計画の打ち合わせ 関係者6名参加
5月10日（水）岐阜の枝豆のレクチャー …学生1名、関係者6名参加
6月10日（土）播種体験 …学生3名、関係者5名参加
6月24日（土）収穫調製作業体験 …学生4名、関係者8名参加
12月15日（金）2023年度報告書を支援関係者に配信



発行（2023.12.14）

全岐阜県生活協同組合連合会

2022年度「えだまめ農業体験」報告書 目次

目次	…P1
➤ 報告書の発行にあたり 岐阜市立女子短期大学生協 理事長 小野 廣紀	…P2
➤ 2023年度「えだまめ農業体験」実施報告書	…P3～P6
➤ 3月23日 事前打ち合わせ 報告	…P7～P9
➤ 5月10日 レクチャー次第と配布資料	…P10～P20
➤ 〃 レクチャーの報告ホームページ記事	…P21～P22
➤ 6月10日 播種体験ホームページ記事	…P23～P25
➤ 〃 播種体験レポート	…P26～P28
➤ 6月24日 収穫調製作業体験ホームページ記事	…P29～P33
➤ 〃 収穫調製作業体験レポート	…P34～P37

岐阜市立女子短期大学生協
理事長 小野 廣紀



岐阜市立女子短期大学生協の学生委員会である「ピーチくらぶ」のメンバーを中心に、本学の学生たちが枝豆農業体験活動に参加させていただいております。この活動は、2012年度から始まり、これまで短大としては食物栄養学科の青木貴子先生、石見百江先生、中村こず枝先生、長屋郁子先生にご担当いただき、お世話になってきました。

この「えだまめ農業体験」は、新型コロナウイルスの感染拡大により、2021年度は中止となりましたが、2022年度から関係者の皆様方のご協力をいただいて再開し、コロナ禍の中ででき得る活動を精査しながら2年間活動してきました。岐阜地域を代表する食材である枝豆の農業体験を通じ、そのご苦労について理解を深め、改めて食の意味や大切さについて考える機会を設けていただけましたことに、関係者の皆さまに心より感謝申し上げます。

近年、食料安全保障への対応が全世界的な課題として浮かび上がっています。これまで日本は、幸いなことに何不自由なく、いつでもどこでも何でも手軽に食べられる恵まれた環境にありましたが、その食生活の基盤が、どのように築かれているのか、生産～流通～小売～消費のフードチェーンの実態を知り、地域の旬の食材や伝統食に触れることを通して交流を深めていくことがますます重要になっていくと思われます。

このような中、この「えだまめ農業体験」は、学生たちにとって、枝豆の生産・流通・販売に関わる多くの方々から、温かいご指導をいただき、貴重な経験を積む良い機会となってきました。参加しました学生たちには、農業体験を通じて得た知識は、今後様々なかたちで活かしてほしいと思います。

今回参加しました「ピーチくらぶ」の学生たちは、日頃から短大生活をより良く楽しいものにするために自発的に活動をしており、今回の体験活動にも、積極的に参加を希望しました。今回の「えだまめ農業体験」を少し振り返ると、5月の事前レクチャーに始まり、6月には播種作業の体験、挽ぎ・選別等の収穫調製作業の体験、圃場の見学を行うことができました。10月に予定した成果発表は、当生協内の事情により発表物が作成できず発表会も開催できなくなりましたことは本当に残念であり、ご支援いただいた皆様にお詫びいたします。

最後になりましたが、今年度も貴重な体験をお世話いただきました、生産者（JAぎふえだまめ部会）の市川博久様、近藤修司様、永田敏郎様、栗本和弥様、JAぎふの山田将大様、鷺見将志様、岐阜農林事務所の小森志保様、岐阜県農政部の吉川周作様、全岐阜県生協連の佐藤圭三様、岐阜大学生協の坂田充宏様、岐女短生協の前口直樹様に心より御礼申し上げます。

2023年12月吉日

2023 年度「岐女短生協ピーチくらぶ

「えだまめ農業体験」実施報告書

1. 2023 年度「えだまめ農業体験」再開に向けた打ち合わせ

- 3 月 23 日(木)10:00～11:00、JAぎふ黒野農産物流通センターで、関係者が集まり今年度の取り組み計画の打ち合わせを行いました。自己紹介から始めました。
出席:山田将大、鷺見将志(JA ぎふ)、小森志保(岐阜農林事務所)、吉川周作(岐阜県農産物流通課)、前口直樹(岐女短生協)、佐藤圭三(岐阜県生協連)
※敬称略
- 山田さんから、コロナの影響や JA ぎふ枝豆部会の今年度の組織体制、生産計画、取り組み計画等を伺いました。その上で、今年度の体験活動計画について相談しました。
- その結果、今年はコロナの規制が大幅に緩和され実施条件も改善されることから、参加者や生産者、関係者のコロナ感染対策を重視して実施することを基本方針案として確認しました。
- また、近年の課題として、岐女短大の学生数およびピーチくらぶの委員数が減少傾向にあります。大学の対面授業は 100%に戻る予定であり、ピーチくらぶ以外の学生にも情報提供するなど、活動への参加者を増やす取り組みを行うことを確認しました。【P7～報告書】

	活動	日時	場所
1	事前レクチャー	5 月 10 日(水) 16:20～	岐阜市立女子短期大学
2	播種体験	6 月 3 日(土) 未定	JAぎふ生産者圃場
3	収穫調製作業体験	6 月 24 日(土) 8:00～	JAぎふ生産者圃場
4	発表会	未定 16:20～	岐阜市立女子短期大学

2. 岐阜の枝豆のレクチャー(2023.5.10)

- 5 月 10 日(水)16:20～17:20、岐女短大 1-404 講義室にて、枝豆についての事前レクチャーを行いました。
出席:三浦那結(1年) 以上ピーチくらぶ
鷺見将志(JA ぎふ)、小森志保(岐阜農林事務所)、吉川周作(岐阜県農産物流通課)、前口直樹、坂田充宏(岐女短生協)、佐藤圭三(岐阜県生協連)
※敬称略
- 岐阜県生協連佐藤の司会進行で、関係者の紹介と、「えだまめ農業体験」のこれま

での経過や取り組みの主旨説明を行いました。

- JA ぎふ 鷺見さんから、「岐阜えだまめ紹介DVD」を鑑賞した上で、資料に沿い、枝豆の栽培概要、作型、品種、出荷先、そして岐阜えだまめの特長について説明がありました。
- 岐阜農林事務所の小森さんから、資料「枝豆の収穫調製体系と品質」に沿って、岐阜えだまめの市場動向、振興の課題、品質維持の取り組み等を説明していただきました。
- 今年度の計画について説明を行い質疑交流しました。「なぜ関東圏には出荷していないのか?」「バラ売りはしていないのか?」「枝付きの方が鮮度は保持できるのか?」など質問が出され交流しました。
- 当面の 6/3(土)播種体験に向け、岐女短大の中で改めて学生に呼びかを行うこと、前口さんが 5/24(水)を期限に参加者集約行うことを確認しました。

【P10～ 資料】



(左)鷺見将志さん

(中)小森志保さん

(右)吉川周作さん

3. 播種作業体験(2023.6.10) ※6/3(土)から延期して実施。

- 2023 年 6 月 10 日(土)15:00～16:30。天候 曇り。【P23～ 資料】
- 15:00 に岐女短大バス停前に集合して、自己紹介と本日のスケジュール確認を行った後、2 チームに分かれ小森さんと鷺見さんの車に分乗して、2 ヶ所の圃場に移動しました。
- 各圃場で、播種作業の説明をうけた後に作業を体験し、生産者の方と質疑や交流を行いました。(～16:00)
- その後大学に戻り、生協食堂で、受講レポートの作成と感想交流を行いました。
- 感想から(要旨のみ抜粋)
 - ・ ふだん何気なく食べている野菜を、農家の方がどれだけ考えながら育てているのかがわかり、感謝しながら食べなければいけないと感じた。
 - ・ お話する中で、農家さんの枝豆への強い思いが伝わってきて、誇りを持って作業しているのだと感じた。
 - ・ 種の蒔き方や作業計画の立て方、作業方法など新しい情報を知ることができた。植物の生育には様々な要因が絡んでいることを知ることができてよかった。

生産者	参加者 ※敬称略
市川博久さん	小野晴加(2年生 食物栄養学科) 小森志保(岐阜農林事務所) 佐藤圭三(全岐阜県生協連)
近藤修司さん	岡部ちとせ(1年生 健康栄養学科) 村山愛美(1年生 健康栄養学科) 鷺見将志(JAぎふ)



4. 収穫調製作業体験(2023.6.24)

- 2023年6月24日(土)、枝豆の収穫調製体験として、挽ぎや選別作業を中心に農作業体験を行いました。【P29～ 資料】

チーム	生産者	参加者 ※敬称略
A チーム	永田敏郎さん	小野晴加(2年生 食物栄養学科) 村山愛美(1年生 健康栄養学科) 小森志保(岐阜農林事務所) 吉川周作(岐阜県農産物流通課)
B チーム	栗本和弥さん	浅野希実(2年 ピーチくらぶ) 田村姫奈(2年 ピーチくらぶ) 鷺見将志(JAぎふ) 前口直樹(岐女短生協) 坂田充宏(岐阜大学生協) 佐藤圭三(全岐阜県生協連)

- 参加者は10名(学生4名、関係者6名)。大学前に朝8時に集合した後2チームに分かれ、JAぎふ枝豆部会の栗本和弥さん、永田敏郎さんのお宅におじゃましました。早朝から収穫された枝豆を機械にかけた後の茎に残っている枝豆を挽ぐ作業

や、粒数や豆の形・大きさなどで選別する作業を体験させていただきました。

- 最初に作業の説明を受けた後、最初は不慣れなため戸惑いながらも少しずつ要領を掴んで作業することができました。まず茎に残っている莢を手で挽ぎ、規格外のものを取り除き、その後、ベルトの上を流れる枝豆を見た目や粒の数により分けました。(L・M・S) ひと通りの作業を体験した後で生産者の方と質疑応答しました。ふだんは知ることができない貴重なお話を聞くことができました
- その後は、永田さんの圃場へ移動し、今朝収穫したばかりの枝豆の畑を見学させていただきました。JA ぎふの鷺見さん、岐阜家農林事務所の小森さんから説明を受けた後で、全員で 1 株ずつ抜いてプチ収穫体験もさせていただき質疑応答しました。
- 最後に大学に戻り、受講レポートの作成と感想交流を行いました。



2023 年度岐女短食農教育実践支援事業の打ち合わせ会 報告

- 日時:2023年 3 月 23 日(木) 10:00～11:00
- 場所:ぎふ農業協同組合 黒野農産物流通センター
- 参加:山田将大さん、鷺見将志(JAぎふ黒野農産物流通センター)、小森志保さん(岐阜農林事務所)、吉川周作さん(岐阜県農政部農産物流通課)、前口直樹さん(岐女短生協)、佐藤圭三(全岐阜県生協連)

2023 年度岐女短食農教育推進事業について

全岐阜県生協連 佐藤 圭三

1. 事業の目的

岐女短生協学生委員会「ピーチくらぶ」の活動として、学生に枝豆の農業体験を通じて、ものづくりの大変さと重要性について理解を深める。あわせて、食の意味と大切さについて考えてもらうことを目的に実施する。

2. 2023 年度の活動計画について相談しました。

(1) 大学の状況について(前口さんから)

- ・ 2023 年度より学科再編(4 学科→3 学科)して入試が行われた。定員数 200 名に対して約 170 名の入学見込みとなっている。
- ・ 授業はの対面率は、2022 年度の約 50%から 2023 年度は 100%に戻る予定。学生数は減るが、学内滞在者数は増えると予想している。
- ・ ピーチくらぶは、2 年生が 7 名。1 年生は新学期から。(4/4 入学式、4/10～授業開始)
- ・ ピーチくらぶ以外の学生(健康栄養学科)にも、小野理事長から呼びかけていただくよう依頼してみる。

(2) JAぎふ枝豆部会の状況(山田さんから)

- ・ 2023 年度の生産計画については特に大きく変わることはない。
- ・ この取り組みへの支援については、部会で確認されれば大丈夫でだと思う。
- ・ 枝豆部会の役員では、市川会長と永田誠治さんが交代された。新会長は鷺山の方。
- ・ 収穫祭は今年も実施しない。

(3) 関係者の役割分担を相談しました。

岐女短生協ピーチクラブ「えだまめ農業体験」は 2020 年度の再開から 3 年目となります。今年度も、岐女短生協ピーチくらぶの活動の一環として実施することとして、以下のように任務分担しました。

- 山田さん、(鷺見さん)・・・レクチャー時の説明。定植・農作業体験・発表会の生産者の調整。定植・農作業体験時の学生への指導。

- 小森さん・・・レクチャー時の説明。作業体験時の学生への指導。発表会での発言。
- 吉川さん・・・レクチャー時の県からの挨拶。体験への参加。発表会での発言。
- 前口さん・・・ピーチくらぶへの説明、企画参加者の募集と集約、参加者との連絡、活動ごとに感想レポートの集約と佐藤(生協連)への送付。大学関係者との窓口。
- 佐藤(生協連)・・・各企画への準備と参加、写真撮影、現地までの学生の移送、報告書の作成等。

① 事前レクチャー

- 5月10日(水) 16:20～17:20 ※4月バスの新ダイヤを見て確定する。
- 会場…岐女短大 (岐女短生協で予約する)
- 開催方法…集合
- JAぎふ、岐阜農林事務所による事前のレクチャーを行う。
- JAぎふ…岐阜の枝豆の産地の概要や岐阜枝豆の特徴、防虫ネット栽培等について説明する。VDVも使用。
- 岐阜農林事務所…今年は消費の視点から、品質保持や枝豆の栄養面について説明する。
- JAぎふの資料は山田さん(鷺見さん)から、岐阜農林事務所の資料は小森さんから佐藤にデータでもらい必要数を印刷して持参する。
映写は教室備え付けのスクリーン・プロジェクターを使用する。
- 冒頭の挨拶と司会…佐藤

② 播種体験

- 日時: 変更:6月3日(土) ()時～()時 ※時刻は生産者と相談していただく。
- 参加者数を、5月()日までに前口さんから佐藤に連絡していただく。佐藤は関係者に報告。山田さん(鷺見さん)に生産者と当日の段取りを調整していただく。
- 岐女短大のバス停に集合。()と()の車で圃場(ヶ所)にむかう。
時間は、作業体験と圃場見学で1時間を予定。終了後に岐女短生協に戻る。(生協関係者のみ)
- 服装は動きやすい服装、長靴・軍手・タオル持参。
- 参加者は感想レポートを前口さんまで提出する。→佐藤 →関係者

② 収穫調製作業体験

- 日時:6月24日(土) 8:00～9:00 開始 → 10:00 終了
- 参加者数を、6月()日までに前口さんから佐藤に連絡していただく。佐藤は関係者に報告。山田さん(鷺見さん)に生産者と当日の段取りを調整していただく。
- 集合時間…()時にバス停集合。()と()の車で生産者宅(2～3軒)まで移動。
- 生産者宅(選果場)で挽ぎ、選別作業等を体験する。

- ()時に圃場(1ヶ所:山田さんが手配)に集合する。説明(約 15～20 分)。
- 岐女短生協に戻り感想交流。(学生、前口、佐藤、)
- 正午までに終了。
- 服装は動きやすい服装、長靴・軍手・タオル・帽子・着替え・カッパ(上下分離のものがよい)持参。
- 参加者は感想レポートを前口さんまで提出する。

③ 発表会

- 後期授業が確定した段階で決定する。9月 25 日(月)～10 月 7 日(金)の間で設定する。岐女短大()にて。
- 参加者: 学生、生産者、関係者
- ピーチくらぶ参加者より、体験による気づきや学び、食と農について、枝豆の栄養学的な意味や、調理方法等について、スライドを使用して報告してもらう。
- 開会挨拶と司会・・・佐藤
- 関係者から一言ずつ感想と励ましの言葉。

④ 「2023 年度事業報告書」の作成

- 全岐阜県生協連で作成する。(10 月中)
- 年内に関係者に配布する。

3. 今後の進め方

- JA ぎふえだまめ部会の役員会で確認していただく。
- 佐藤より、岐阜県農産物流通課長、岐阜農林事務所長宛に、年間の支援依頼文書を提出する。
- 4 月中に前口さんより、ピーチくらぶのメンバーにスケジュール等を説明してもらい、参加希望者を募集してもらう。
- 播種体験と収穫調製作業体験については、生産者・場所の選定を、山田さん(鷺見さん)に調整していただく。
- 参加感想レポートを前口さんに集約いただき佐藤(生協連)まで送付してもらう。

以上

		候補日	時間	場所
1	関係者打合せ	3 月 23 日(木)	10:00～11:00	JA ぎふ黒野農産物流通センター
2	事前レクチャー	5 月 10 日(水)	16:20～17:30	岐女短大()
3	播種体験	6 月 3 日(土)	※生産者と相談	山田さん(鷺見さん)より
4	農作業体験	6 月 24 日(土)	8 時から 9 時～10 時	
5	発表会	月 日()		岐女短大 ()

2023 年度岐女短食育推進事業「枝豆レクチャー」 次第

1. 日時:2023 年 5 月 10 日(水)16:20～15:20
2. 会場:岐阜市立女子短期大学 1-404 教室(4 階)
3. 参加者

JA ぎふ黒野農産物流通センター	鷺見将志 さん
岐阜県農事務所農業普及課	小森志保 さん
岐阜県農政部農産物流通課	吉川周作 さん
岐阜市立女子短期大学	さん
岐阜市立女子短期大学生協	ピーチクラブの皆さん
〃	前口直樹さん、坂田充宏さん
全岐阜県生活協同組合連合会	佐藤圭三

4.今年度事業の目的:

- (1) 岐女短生協学生委員会「ピーちクラブ」の活動として、学生に枝豆の農業体験や生産者との交流を通じて、ものづくりの大変さと重要性について理解を深める。あわせて、食の意味と大切さについて考えてもらうことを目的に実施します。
- (2) 2020 年度は新型コロナのため活動休止し、2021 年度、2022 年度と徐々に活動を再開してきました。今年度は、播種作業体験や収穫調製作業体験を予定します。

5. 次第: ※司会…全岐阜県生活協同組合連合会 佐藤圭三

(1)関係者紹介と開会挨拶(趣旨説明)

(2)「えだまめ農業体験」のレクチャー

- ①岐阜の枝豆の産地の概要や岐阜枝豆の特徴、防虫ネット栽培等についての説明。

…JA ぎふ農産物流通センター 鷺見将志さん

- ②「エダマメの収穫調製体系と品質」

…岐阜農林事務所農業普及課 小森志保さん

(3)今年度の事業計画の紹介 …全岐阜県生協連 佐藤圭三

①事前レクチャー

- 日時: 5 月 18 日(水) 16:20～17:20 市立岐阜女子短期大学

② 播種体験

- 日時: 変更:6 月 3 日(土) ()時～()時 ※時刻は生産者と相談し決定。
- 参加者数を、5 月()日までに前口さんから佐藤に連絡いただく。佐藤は関係者に報告。山田さん(鷺見さん)に生産者と当日の段取りを調整していただく。
- 岐女短大のバス停に集合。()と()の車で圃場(ヶ所)にむかう。
時間は、作業体験と圃場見学で 1 時間を予定。終了後に岐女短生協に戻る。(生協関係者のみ)
- 服装は動きやすい服装

❖ 昨年の様子



③ 収穫調製作業体験

- 日時:6月 24 日(土) 8:00～9:00 開始 → 10:00 終了
- 参加者数を、6 月()日までに前口さんから佐藤に連絡いただく。佐藤は関係者に報告。鷺見さんに生産者と当日の段取りを調整していただく。
- 集合時間…()時にバス停集合。()と()の車で生産者宅(2～3 軒)まで移動。
- 生産者宅(選果場)で挽ぎ、選別作業等を体験する。
- ()時に圃場(1ヶ所:山田さんが手配)に集合する。説明(約 15～20 分)。
- 岐女短生協に戻り感想交流。(学生、前口、佐藤、)
- 正午までに終了。
- 服装は動きやすい服装、長靴・軍手・タオル・帽子・着替え・カッパ(上下分離のものがよい)持参。
- 参加者は感想レポートを前口さんまで提出する。

❖ 昨年の様子



④ 発表会

- 後期授業が確定した段階で決定する。9月 25 日(月)～10 月 7 日(金)の間で設定する。 岐女短大()にて。
- 参加者: 学生、生産者、関係者
- ピーチくらぶ参加者より、体験による気づきや学び、食と農について、枝豆の栄養学的な意味や、調理方法等について、スライドを使用して報告してもらう。
- 開会挨拶と司会・・・佐藤
- 関係者から一言ずつ感想と励ましの言葉。

※一昨年の様子



⑤「2023 年度事業報告書」の作成

- 全岐阜県生協連で作成する。(10 月中)
- 年内に関係者に配布する。

❖ 昨年の報告書(表紙)

2022 年度食農教育実践支援事業

岐阜市立女子短期大学生協ピーチくらぶ

「えだまめ農業体験」報告書

5月18日(水) 岐阜の枝豆のレクチャー…学生7名、関係者5名参加
6月 4日(土) 播種体験 …学生3名、関係者7名参加
6月25日(土) 農作業体験 …学生4名、関係者6名参加
1月25日(木) まとめ報告を関係者に配信



発行 (2023.2.1)
全岐阜県生活協同組合連合会

(4)質疑応答

(5)閉会挨拶 ……岐女短生協

以上

岐女短生協ピーチくらぶ「えだまめ農業体験」事前レクチャーが開催されました 【23.5.12】



今年も岐阜市立女子短大の講義室をお借りして開催しました。

2023年5月10日(水)、岐阜市の岐阜市立女子短期大学において、2023年度の「えだまめ農業体験」の事前レクチャーが行われました。

この「えだまめ農業体験」は、岐阜県の食農教育実践支援事業として平成24年から始まり、地元岐阜市の代表的な農産物である「えだまめ」を題材に、枝豆づくりの作業を通して、枝豆のことを知るだけでなく、農業の大変さや生産者のご苦労を知る貴重な体験として継続されてきました。岐女短生協の学生委員会「ピーチクラブ」の活動を、大学やJAぎふ、岐阜農林事務所、岐阜県農政部、そして岐阜県生協連がサポートして毎年続けてきました。

新型コロナの影響で2020年度はお休みしましたが、翌年から徐々に活動を再開してきました。今年度も、6月に播種体験、収穫調製作業体験を計画しています。農作業や生産者の方との交流を通して、農業がどのように動いているかや、生産者の思いやどのようにお仕事をされているかについても学ぶことをテーマに組み込んでいます。

この日は、まず関係者の紹介に続き、岐阜県生協連から趣旨説明も含め開会挨拶を行いました。

そして、JAぎふ黒野農産物流センターの鷲見将志さんから、枝豆の栽培概要、作型、品種、出荷先、そして岐阜えだまめの特長について説明していただきました。岐阜市の枝豆農家数は約161戸。栽培面積は90haです。減少傾向にはありますが、生産量606トンで約4.8億円の出荷高を誇っています。全国でも早い段階から機械化が始まりました。1月からハウスでの播種が始まり、4月から11月まで収穫が行われるなど、長い期間をかけて収穫・出荷することが特長です。栽



JAぎふの鷲見さん

培時期に合わせて品種も豊富で、出荷量の約5割が京阪神へ、約3割が東海に出荷されているそうです。



岐阜農林事務所の小森さん

続いて、岐阜農林事務所の小森志保さんから、資料「枝豆の収穫調製体系と品質」に沿って説明していただきました。この中では、岐阜えだまめは大阪の市場で約3割のシェアがあるが生産量は漸減しており、今後の振興のためには「ブランド力の堅持」と「生産労働力の確保」が課題であること。そのために収穫作業の工程に基準を設け、160軒の農家からの生産物の品質が揃うよう努力をされていると教えていただきました。生産労働力を確保するために、農家の要望と消費者の購入動機(味・鮮度、価格、安全性など)を突き合わせ、サンプリング検査も行っており収穫・冷蔵・輸送時間帯も改善をはかられていることがわかりました。

その後、岐阜県農産物理由通過の吉川周作さんから今年の活動への期待の言葉をいただき、質問や感想を出し合って交流しました。「なぜ関東圏には出荷していないのか?」「バラ売りはしていないのか?」「枝付きの方が鮮度は保持できるのか?」など率直な質問が出され、鷺見さんや小森さんから回答していただき学習会することができました。

最後に岐女短生協代表理事の前口直樹さんから閉会の挨拶があり、この日のレクチャーを終了しました。今年度の活動計画は、6/3(土)播種体験、6/24(土)収穫調製業体験、秋に発表会、11月に事業報告書作成の予定で進めます。JAぎふ枝豆部会の皆さまには今年もお世話になりますが、よろしくお願いいたします。6月の作業体験には一人でも多くの学生さんが参加されることを楽しみにしています。



岐阜県農産物流通課の吉川さん

■開催の概要

日時：2023年5月10日(水)16:20～17:20

会場：岐阜市立女子短期大学 1-404講義室

出席：ピーチクラブの学生さん(三浦さん)、鷺見将志さん(JAぎふ)、
小森志保さん(岐阜農林事務所)、吉川周作さん(岐阜県農産物流通課)、
前口直樹さん、坂田充宏さん(岐女短生協)、佐藤圭三さん(岐阜県生協連)

岐女短生協ピーチくらぶ「2023えだまめ農業体験」播種体験を行いました 【23.6.12】



(左)近藤修司さんの圃場(岐阜市菅生)



(右)市川博久さんの圃場(岐阜市尻毛堤外)

岐女短生協の学生委員会ピーチくらぶでは、2012年から「食農教育推進事業」として、JAぎふや行政の支援を受けて、枝豆農作業体験に取り組まれています。2023年6月10日(土)、2023年度活動の第2弾として、岐阜市尻毛と菅生にあるJAぎふえだまめ部会の生産者の方の圃場にて、枝豆の播種(種蒔き)作業を体験させていただきました。

この日参加したのは、食物栄養学科の小野晴加さん、健康栄養学科の岡部ちとせさん、村山愛美さんの3名。支援関係者として、JA岐阜の鷺見将志さんさん、岐阜農林事務所の小森志保さん、全岐阜県生協連の佐藤圭三さんが参加しました。

15時に大学に集合。簡単に自己紹介を行い、さっそく2チームに分かれ、鷺見さんが事前に依頼していただいていた2名の生産者(市川博久さん、近藤修司さん)の圃場に移動しました。

JAぎふえだまめ部会では、播種時期は2月から8月初旬、収穫は11月15日くらいまでを予定されているそうです。きれいにマルチがけされた圃場で、等間隔に穴をあけながら土の中に枝豆の種(豆)を一粒ずつ入れていく作業です。種蒔きといえば、指や棒で穴をあけて行うのかと思っていましたが専用の器具を使って行う作業でした。昔は手作業でやっていたそうですが、器具を導入したことにより、時間短縮や作業負担も軽減できたそうです。



最初に市川さん(中)からレクチャーを受ける小野さん(左)。(右)は小森さん。

まず最初に生産者から器具の「なかよくくん」を使った種蒔きのやり方をレクチャーしていただき体験を開始しました。長く続く畝の両端に近いラインに、20cm強の間隔で互い違いに蒔いていきます。まず器具を土に刺し、上から種(大豆)を一粒投入すると、地中(3.5cmくらい)に正確に蒔いていける仕組みになっていました。間隔は、狭くても広くても成長がよくなるわけではないそ

うです。これくらいが最適で、なるべく枝豆にとってのストレスを減らすことがポイントだと教えていただきました。

この播種作業を行うタイミングは、晴天続きでも雨がたくさん降った後でもよくないし、翌日が雨の日も発芽率が悪くなるそうです。土壌の適当な水分量のときでないと上手に芽がでないそうです。長年の経験から絶妙なタイミングで種植えをすることで、おいしい枝豆に成長するとのことでした。



「なかよくくん」でマルチに穴を空けて種(大豆)を一粒ずつ投入します。



この日時いた「青祭」は暑さに強く、濃い緑色になるのが特徴の品種です。



近藤さんはご夫婦で枝豆栽培をされています。この日は奥さん(中)も一緒に作業してくださいました。

初めての播種体験も生産者の指導のおかげで無事終わり、質疑応答でお話を聞きました。学生さんからは、圃場の鳥獣害について質問が出ました。いろいろな動物がでる中で、堤外圃場では、近年キツネの被害が増えているそうです。菌を持っているので迂闊に触れることができず困っていると教えていただきました。またカラスの被害もあるとのことでした。

16時すぎに両チームとも大学に帰着。生協の食堂で感想を交流しました。

- 「初めて体験して勉強になりました。楽しくできました」
- 「器具を使って種を蒔くことを初めて知りました」
- 「ふだん何気なく食べている野菜を、農家の方がどれだけ考えながら育てているのかがわかり、感謝しながら食べなければいけないと感じました」
- 「お話しする中で、農家さんの枝豆への強い思いが伝わってきて、誇りを持って作業しているのだと感じました」
- 「種の蒔き方や作業計画の立て方、作業方法など新しい情報を知ることができました。植物の生育には様々な要因が絡んでいることをしることができて良かったです」などの感想がレポートで出されました。

播種から収穫まではおよそ80日とのこと。この日蒔いた種は8月10日すぎが収穫予定だそうです。ちゃんと芽が出て育ち、美味しい枝豆が実るのが楽しみです。

次回は、6/24(土)。収穫した枝豆の挽ぎや選別の作業を体験させていただく予定です。

◇この日参加の皆さん。ありがとうございました。 ※敬称略

●近藤修司さんチーム

岡部ちとせ(1年)、村山愛美(1年)、鷺見将志(JAぎふ)

●市川博久さんチーム

小野晴加(2年)、小森志保(岐阜農林事務所)、佐藤圭三(全岐阜県生協連)

岐女短生協ピーチくらぶ「えだまめ農業体験」収穫調製体験を行いました。 【23.6.28】

2023年6月24日(土)、枝豆の挽ぎや選別作業を中心に収穫調製の体験を行いました。岐女短生協では、学生委員会ピーチくらぶが「食農教育推進事業」として、2004年からＪＡぎふや行政の支援を受け、「えだまめ農業体験」に取り組んでいます。地元岐阜市の代表的な農産物である枝豆を題材に、農作業を体験することを通して、枝豆のことを知り、農業の大変さや生産者のご苦労等を学ぶ貴重な場として位置づけています。

この日の参加者は10名(学生4名、関係者6名)。岐女短大に朝8時に集合した後2チームに分かれ、ＪＡぎふ枝豆部会の栗本和弥さん、永田敏郎さんの作業場におじゃましました。早朝から収穫された枝豆を機械にかけた後の茎に残っている枝豆を手で挽ぎ、粒数や豆の形・大きさなどで選別する作業を体験させていただきました。



圃場で収穫体験しました。



栗本さんチームの体験の様子。説明を聞き茎から手で枝豆を挽ぎます。

この日は、梅雨の中休みで気温・湿度も高め。最初に作業の説明を受けた後、最初は不慣れなため戸惑いながらも少しずつ要領を掴んで作業することができました。枝豆の収穫は、およそ4月から11月にかけて行われ、最初は施設(ハウス)から始まり、6月からは露地栽培のものに移行していくそうです。



流れてくる枝豆を、外観や粒の数で選別します。

機械からはどんどん茎が落ちてきて積みあがります。まず茎に残っている莢を手で挽ぎ、規格外のものを取り除きます。その後、ベルトの上を流れる枝豆を見た目や粒の数により分けます。(L・M・S) Lが全体の約8割、S(1粒のもの)が2割弱だそうです。Sは関西地域の市場で人気があるとのことでした。



永田さんチームの作業の様子。手作業での選別作業と機械の説明を聞きます。

ひと通りの作業を体験した後で生産者の方と質疑応答しました。「枝豆」と漢字で書くのは枝に豆ができるからだということ、収穫からスーパー等の店頭には2～3日くらいで並んでいること、生育中の病害虫被害を防ぐために防除には特に気をつけていること、その中でも粉じらみは対策が難しいこと、出荷は共選のため全体で品質が揃っていることが大事であること、そのためにえだまめ部会で栽培指針・基準・資材等を決め、各生産者が「岐阜枝豆標準規格」をしっかりと守り栽培しているそうです。



一つひとつの丹念な選別により品質のよい枝豆が出荷されます。

また、防虫ネットを使用するようになってから品質がかなり上がってきたこと、必ず規格で決められた登録農薬を使うこと、出荷日時によりおよそトレースができるよう管理されていること、などを教えていただきました。ふだんは知ることができない貴重な話を聞くことができました。

その後は、永田さんの圃場へ移動し、今朝収穫したばかりの枝豆の畑を見学させていただきました。JAぎふの鷺見さん、岐阜家農林事務所の小森さんから説明を受けた後で、全員で1株ずつ抜いてプチ収穫体験もさせていただき質疑応答しました。



- 帰りの際には、嬉しいことに今日の体験で掬いだり選別した枝豆や枝豆の加工品のケーキをお土産にいただいて大学に戻り感想交流しました。
- 「機械に頼り切らず、農家の方が枝豆を一から育て出荷まで責任をもってつくりあげていることを実感しました」
- 「人が手作業できれいに選別しているおかげで店頭にはきれいな状態の枝豆が並んでいることがわかりました」
- 「ふだん何気なく買っている枝豆ですが、売り場に並ぶまでの間にこんなにも多くの方たちが携わり手間ひまかけてつくられていることがわかりました」
- 「人の目で何度も見分けチェックし分別したもののだけが私たちの手元に届いており、すごいと感じました」



今年もJAの方のご協力で、地元の生産者の方と交流し、農業について学ぶことができました。ご協力いただいた生産者の皆さまや、岐阜市農協の鷺見さん、岐阜農林事務所の小森さん、岐阜県農産物流通課の吉川さんに心から感謝いたします。今後は、10月の発表会に向けてみんなで体験報告をまとめます。秋の再会を楽しみにしています。



●この日参加の学生さん

浅野さん、田村さん、小野さん、村山さん(学生さん)

●サポート関係者の皆さん

鷺見さん(ぎふ農協)、小森さん(岐阜農林事務所)、吉川さん(岐阜県農産物流通課)、前口さん(岐女短生協)、坂田さん(岐阜大学生協)、佐藤さん(全岐阜県生協連)